

2020年4月10日
日本生命保険相互会社

国際金融公社が発行するソーシャルボンドへの投資について
～新型コロナウイルス感染症対策支援への貢献～

日本生命保険相互会社（社長：清水博、以下「当社」）は、この度、国際金融公社（正式名称：International Finance Corporation、以下「IFC」）が発行するソーシャルボンド（以下「当債券」）に2億豪ドル（約131億円）投資しました。

なお、当債券は IFC が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の急速な拡大に伴う発展途上国の民間企業への緊急支援を発表した2020年3月3日以降において、単独の機関投資家向けに発行する国内初のソーシャルボンドであり、当債券で調達した資金は、COVID-19の影響を受けた国を含む発展途上国において、必要なサービスを受けられない人々を受益者とするプロジェクトに充てられます。

世界銀行グループの一員である IFC は、新興市場の民間セクター支援に特化した世界最大規模の国際開発金融機関です。今般、IFC は COVID-19 の拡大による景気低迷の影響を受ける民間企業とその従業員を支えるため、80億米ドルの COVID-19 関連の融資枠を設定しました。

IFC は、サプライチェーンの断絶に苦しむ民間企業、パンデミックの影響を直接受けている観光や製造といった経済セクターを資金面で支援します。また、この支援はパンデミックへの対応に関与しているセクター、例えば医療関連サービスや医療機器、医薬品への需要増に対処しているヘルスケアや関連産業などにも恩恵をもたらすものです。

当社は、環境や地域・社会と共生し、経済・企業と安定的な成長を共有していく観点から、環境問題の解決や社会貢献に資する ESG 投融資を積極的に実施しており、当債券への投資もその一つと位置付けています。

今後も、社会公共性・投資採算性を踏まえ、ESG 投融資を推進することで、ご契約者利益の一層の拡大に努めるとともに、持続可能な社会の形成に寄与してまいります。



出典：Ascendis, IFC Case Study 2016



出典：IFC Social Bond Impact Report FY2019

<SDGs 達成に向けた当社の目指す姿について>

当社は、2015年9月に国連総会で採択されたSDGsの達成に向けて、あらゆる企業活動を通じて取り組み、当社ならではの新たな価値を創造する観点から、「SDGs 達成に向けた当社の目指す姿」を設定しました。

取り組みにあたっては、「貧困や格差を生まない社会の実現」「世界に誇る健康・長寿社会の構築」「持続可能な地球環境の実現」の3つのテーマと「ESG 投融資」に特に重点を置き、安心・安全で持続可能な社会の実現を目指します。

■ SDGs 達成に向けた当社の目指す姿



<これまで IFC のソーシャルボンドが関与した分野の SDGs>



以 上